

第35回 トライアスロン中島大会

2023年8月27日

全国から 323 名の方が出場し、
体力と気力の限界に挑んだ中で、
視覚障がい1級の鉄人誕生!! 3時間36分23秒 201位

絆 4年越しの夢叶う!

絆に支えられ

浅井さんと、スイムの際に二人の体を結ぶロープ。伴走の際の二人の手と手で握るガイドロープ。もう一つは4年間二人で練習してきたことが心の絆で、見えないロープとなって完走に繋がった。また、サポートメンバーの真木さん、大西さん、森さんの3人も見えないロープで繋がっていたと思います。特にスイムでは大西さんが前を泳ぎ方向を示し、森さんが右横で左右にぶれないように壁になって、後方では真木さんが左右の足をたたく合図で方向調整をしてもらいました。残り300mくらいは森さんがリズムよく掛け声をかけてくれたので、浅井さんと二人で泳ぎやすかったねとバイクに乗った際に話しました。心配されたスイムは、予定タイムより遅かったものの余力を残して終えることができました。

涙を堪えてBIKEへ

砂浜からBIKEに移動する準備をしていた時、会場アナウンスで自分のプロフィールとメッセージが読み上げられていました。



繋がるペダルで人と風が運んでくれた喜跡

網膜色素変性症で30代で視力を失った佐々木一明です。水泳を始めると同時にタンデム自転車に出会ったのが2014年のこと。イベントの度に参加する中で2016年久島大橋完成イベントの際のパイロットが、トライアスロンをやっている大西さんとの出会いでした。風を切って走りながら聞いた話が耳から離れず「やってみたい」と思いました。2019年初めて海外サイクリングツアーで台湾に行き、「やればできる」という自信に繋がりと、その年のモンテッチ海岸でのイベントで意を決して「中島トライアスロンに挑戦したい」と宣言をしました。嬉しいことに、浅



視覚障がい1級 佐々木一明さん

井さんがガイド役を引き受けてくださるという流れができました。勢いこんでNONちゃん倶楽部が後押ししてくださったり、実行委員会に視覚障がい者の受け入れを働きかけてくださいました。コロナの影響で大会が中止となる中、2020年8月23日体験会を開いてくださり、時間内に完走できたことで大きな自信につながりました。コツコツと練習を積み重ねている中で、2023年8月27日「第35回トライアスロン中島大会」でデビューが決まるという夢の一步が踏み出せることになった喜びは言葉にはなりません。視覚障がいでもやればできる!ということを皆さんに知っていただい、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。中島の皆さん本当にありがとうございました。



今日の大会までの4年間のいろいろな思いが頭の中を駆け巡り、皆さんの応援の声に涙が出ました。

準備に少し手間取りましたが、BIKE40kmに向かってNONちゃん倶楽部の応援を受けてスタート。途中家族や中島在住の先輩の応援を受け力をもらいました。

島民の皆さんありがとう

2時間30分を経たころ、最後のラン10kmをスタートすることができました。気温も上がり想像どおり暑くなりました。

島民の方々の声援と飲み水、頭から水をかけてもらいながらヘトヘトになりながらグラウンドに近づいてきました。ゴール近くでは津賀さん達の大きな声援が聞こえていました。ゴール手前で孫が手をつないで、一緒にゴールしてくれました。制限時間内にゴールできたこと、浅井さん、みなさんに感謝で感極まりました。

後で聞いたのですが、孫が家に着くなり「一番になった人より、ジイジのほうが声援多かったよ」と、娘に報告していたそうです。



初めての トライアスロンガイド役に挑戦

西予市明浜町 浅井裕史さん

挑戦のきっかけは、4年前のクリスマス、「トライアスロンに挑戦したい。一緒に練習していただけますか?」視覚障がい者の佐々木一明さんからの一本の電話で挑戦は始まりました。

不安を抱きながらのスタート

障がいのある方とスポーツをすることは初めてで、どのように何に気を付けるのか、声掛け、練習内容等、全て不安でしたが徐々に練習するうちに、佐々木さんが明るく前向きな性格であったことや、何をしてほしいか伝えてくれることでその心配も無くなりました。

手探りで始めた練習は、基本毎週日曜日の午後4時から2時間程度を4年間続けました。練習環境は信号無し、適度な勾配、自然にも恵まれた八幡浜諏訪崎県立自然公園周辺。

ゴールの瞬間を描き

その成果もあり水泳1.5km、ラン10km、自転車40kmのレースに向け、体力気力共に充実し、二人でゴールできるイメージを持つことができました。

またレース当日はNONちゃん倶楽部の精鋭メンバー(真木さん・大西さん・森さん)の援護を受けてトラブルに備えてくれます。とても安心できました。

そして、レース当日は炎天下の中、スイムでスタート。想定はしていましたが大変でした。

スイムを終えた安堵

大勢の中で一斉にスタートするので、二人をゴムロープで胴体を結んでいる私たちの間を泳ぐ方、ロープに引っかかる方(故意ではない)などありましたが、援護を受けながら無事陸に上がった時はホッとしました。

次の自転車やランは自信があったので、多くの声援の中、楽しく気持ちよく走ることができました。

特に、会場を起点に陣取る、NONちゃん倶楽部応援団の声援に勇気づけられ、力が湧き苦しいことも笑顔で乗り越えることができました。

万感のおもいでゴール

最終ランは、ゴールも近づくとこれまでの練習過程や多くの方々の支援、テレビ愛媛取材班の篠原さん等、4年間の思い出が蘇り、目の前が涙でかすんで見えましたが、多くの方々に見守られながら無事佐々木さんとゴールすることができました。今回、視覚障がいのある方と関わり挑戦することで、障がいのある方に対する意識が低かった私にとって、とても良い経験となりました。

二人で練習以外でも色々な場面において行動しました。それは市街地・お店・フェリー・食事・浴場等、それぞれの場面で状況を伝え安全を第一に安心して行動できるよう、意識して関わることで、障害物や改善したらよい点等、障がい者の立場で考えることができるようになったと思います。

NONちゃん倶楽部のタンデム自転車を通して、多くの方々と関わり、とても貴重な経験ができました。

心のバリアフリー社会の実現

NONちゃん倶楽部のイベントには、様々な障がいのある方が参加されますのでタンデム自転車の繋がるペダルを通して意思疎通が図れるのは魅力です。団体が掲げている「心のバリアフリー社会の実現!!」で、誰もが安心して、暮らしやすい町づくりにつながると思います。

改めて、この4年間、津賀さんを中心に関わっていただいた皆様に感謝を申し上げます。

